



## 博物館と体験学習

—立川市歴史民俗資料館増築にあたって—

立川市歴史民俗資料館 館長 佐藤 高之

立川市歴史民俗資料館は、昭和60年12月1日の開館以来、おかげさまで7年目を迎えることができました。この間、多くの方々にご利用いただくとともに、1万点を越える民具等の資料をご寄贈いただきました。

当初の予想をはるかに越えるご利用と資料の収集があったため、資料館を増築することになり、平成2年度から平成3年度にかけて、増築工事が行われました。工事は、平成3年5月に竣工し、同年7月20日から、増築部の使用が始められました。

増築部は、鉄筋コンクリート造り2階建てで、延床面積は、約700㎡。収蔵庫の他、体験学習室(約100㎡)、会議室(約50㎡)、図書資料室(約40㎡)などが設けられています。

中でも、体験学習室には、イロリの部屋や畳の部屋

があり、はたおり教室や手打ちうどん作り、むぎわら細工などが行われ、毎回、幼児から高齢者にいたるまで、多くの方々のご利用をいただいております。

ところで、近年の生活様式の変化は、誠に大きく、ほんのひと昔前の人々の暮らしについても、もう分からなくなってしまったことがたくさんあります。特に、昔の人々が長年にわたって築き上げてきた生活技術のようなものは、文字などではなかなかうまく伝えることができません。実際に体験しながら学ぶほかにないように思います。

立川市歴史民俗資料館では、今後も、展示を見るだけの資料館ではなく、さまざまな体験学習を通し、地域の伝統的な生活文化を、市民のみなさんと一緒に学んでいく資料館を目指したいと思っております。

# 郷土博物館を建設中

## 東大和市教育委員会社会教育課

東大和市では、平成6年4月開館にむけて、郷土博物館を狭山丘陵のふもとに建設中です。常設展示室（468㎡）、体験学習施設、プラネタリウムを備えた総合博物館（延床面積 2,856㎡）です。「狭山丘陵とくらし」というテーマでの運営、展示を目指しており、狭山丘陵と密接な関係をもってきた東大和市の自然、歴史、民俗を表現していきます。

運営においては、建物の枠にこだわらず、狭山丘陵の雑木林全体を舞台として考え、活動を行っていきます。

展示はただ見るだけでなく、「さわる」「動かす」ことで積極的に参加できるような工夫をしていきます。

プラネタリウム（14m）では、天体学習のほか、全天周映画の上映を行います。

また博物館本体とは別に、体験学習施設を設置し、

土器・石器作り、年中行事の疑似体験のできる事業を行いたいと考えています。

また郷土の歴史、民俗、自然、天体などの講座を行ったり、狭山丘陵での自然観察会、文化財めぐりなども実施していきます。

現在、身近にある郷土博物館として市民はもとより、小中学校の授業や高校でのクラブ活動などにも利用できるように、また狭山丘陵を訪れる市外の皆さんにも気軽にお立ち寄りいただけるようにしたいと考えています。博物館協議会や小中学校の先生方を含めた検討会では、郷土博物館の内容・運営方法について検討中です。

また、皆さんの博物館を見学させていただいたり、いろいろお聞きしたりするかとと思いますが、よろしくお願ひします。



## 藁工品を作る－体験学習の一例

八王子市郷土資料館

服部敬史

近年の博物館活動の中で、比較的多くなった市民参加の体験学習の一例について紹介しておこう。

八王子市郷土資料館では、市民参加の事業として講座・教室と名のつく催物の他、実際に自分の手で生み出す、あるいは触れて考えるなど、自己体験を通して理解する講座として、いわゆる体験学習を行っている。

この講座の開始は昭和53年であるから、もう13年という実績になるが、それ以上にこの活動効果は思いのほか人々の中にインパクトを与えているようである。それは、あえて大上段にかまえた企画ではなく、当初は子供たちと遊ぶというような、竹トンボ・竹馬・紙鉄砲・正月遊び等々、自前の指導員（嘱託学芸員）を中心に実施した気軽なものであった。ところが、少し意欲を出して伝統的な藁工品に挑んだあたりから、参加者と私達スタッフにも真剣味が加わりはじめ、何の変哲もない一本の素材を無限に近く生かす伝統技術について自然に考える心構えが出来上がってきた。おそらく、生活に根ざした技術であることや、この技術の保存はどうなるのかなど、自分の手で藁を扱ってみてはじめて強烈に理解出来たからであろう。こうした気運は別に藁工品に限らず、木工でも織物でも、染色や紙工品等の伝統工芸を実際に取り上げて同じ効果になるかも知れない。しかし素材が平凡な藁というところに、各自が独特の思いをのこす点で、他と異なっていよう。また道具は自分の体ひとつであるところにも思い入れの強さがある。

さて藁工品づくりを述べよう。藁工品は言うまでもなく民俗資料の中に数多く見られ、珍しくないが、市民を対象として実際に作れるものは限られてくる。本館では、はきものの「わらじ」「ぞうり」と正月飾りである「しめ縄」をこのところ繰り返し取り上げている。どれも簡単にマスターできるものであるが、現代人はそれさえ難しい。そのところに体験学習の最大の意味があるのである。

本年度は「わらじ」を作る学習にした。まず原料の藁を調達する。これは、さすがの田園都市八王子でも最近では集めにくくなったが、特定の農家に前から予約しておく。このため手刈りの良質の藁が今のところ確保出来る。

次に、講師であるが、藁工品の技術保持者は年々減少する。民俗調査の

折々に、お年寄りに聞取りしておき、講師を依頼する。実際には、作るだけでなく指導するだけ手数がかかるから、結構力仕事のこともある。手取り足取り指導できる人の方がよさそうである。

講師ひとりに6～7名の受講生を配する。10名を越えると指導が徹底しにくい。

準備はこの程度である。前日、軽く水を打っておいた藁を各自一束（ほぼ二握り程）ずつ持ち、藁打ち→縄ない→わらじ編み→完成という順序で一足を作り上げる。この過程はなかなか面白いが、それは参加者の貴重な体験なのである。そしてそれは前述の問題意識へとつながる。

主催する側からみると、藁工品は、完成した製品を満足気に眺める参加者の顔をよそに、すでに後かたづけの事で頭が一杯となる。それほど会場は藁だらけになる訳で、本館のように体験学習室といった目的施設を備えていないところでは一番の悩みであろう。ほこりを嫌う展示施設には、言わば最もなじまない企画であり、それ相応の対策をもって望む必要がある。

講師の後継者もまた考えておかなければならぬ問題である。お年寄りがいつまでも元気である保証はない。技術を受け継ぐ新しい人が育つ必要を痛感する。かと言って、実際に生活に発揮された技術は、残念ながら伝わらず、単に物が出来るということとどまってしまう点をいかに考えるかの問題は残る。

しかしながら、伝統技術の体験は、藁工品に限らず、民具・民俗資料の理解を深めることにつながるだろう。そしてその関心は過去にも遡り、道具と文化を見つめ直す気運を醸成すると思われる。一気に多人数を養成出来ないが、確実な博物館派を育てるには、体験学習は欠かせない。



## 平成3年度の活動報告と平成4年度の活動計画

### ■府中市郷土の森

平成3年度の特別展・企画展は、近世の伊勢参宮の旅とその歴史的背景を探る**伊勢へ奈良へー幕末の旅と社会**（3/24～5/6）、江戸初期に伝来した望遠鏡がいかに普及していったかを考える**遠くを望むー江戸時代の望遠鏡展**（7/21～9/1）、市民から寄せられたさまざまな生活資料を中心に展示する**収蔵品展**（9/8～10/13）、多摩川流域で発見された貝化石から地質時代を探る**貝化石と貝の仲間**（11/17～12/15）、アメリカで発見されたマイアサウラの化石などから恐竜の全身骨格と「動く恐竜」を復元した**恐竜展ーマイアサウラ親子の世界**（1/12～3/8）、「梅まつり」に因み近郊の梅の名所を錦絵などで紹介する**江戸・明治の梅名所案内ー名所記・浮世絵にみる**（3/15～3/29）を実施した。平成4年度は、プロカメラマンがとらえた四季折々の郷土の森風景を紹介する**写真展ー畑亮夫 郷土の森を撮る**（4/26～5/17）、関東平野が海だった頃の様子を化石などから探る**海辺の生物と貝類**（7/19～8/31）などを予定している。

加えて、各分野の講座、土器作り・米作りなどの体験学習、「梅まつり」「森のコンサート」「森のお話会」「茶会」などや、プラネタリウム、移動天文観測車などの天文関連事業を展開。

平成3年4月、郷土の森に水車小屋が完成した。武蔵野地方特有の胸掛（下掛）式の水車に復元され、旧越智家住宅（茅葺農家）を中心に、カシグネ・水田・畑などとともになわゆるハケ下の景観を構成している。内部は、製粉用挽臼1基、精米用石臼2基、ワラ打ち用1基が備えられ、米作りの体験学習と並行し、糶摺・精米・製粉の作業をするほか、ワラ細工講座にも活用される。冬季を除く毎週末には、ソバを挽く作業を実演し、ソバ粉の販売もする。

なお、平成元年度の郷土の森第2期工事竣工の後、さらに隣接用地の活用が可能となり、この築造とふるさと体験館・団体休憩所の建築、長屋門の移築復元の工事が平成4年度末の完成をめざして進行中である。



### ■町田市立博物館

町田の縄文時代（4/16～6/9）

市内から出土した縄文時代の土器や石器、宗教的な遺物、装身具類 200点を展示。

中国・乾隆ガラス（同上）

館蔵資料の清朝乾隆ガラス50点を展示。

関東の仮面（6/22～7/21）

東京都、千葉県、神奈川県内の社寺に伝来する舞楽面や行道面 100余点の仮面を展示。

民具と生活（8/3～9/1）

町田市域の伝統的な生活の中で使われてきた生活用具及び生業関係用具 150点を展示。

多摩の民具ー江戸時代の農具ー（同上）

江戸時代の年号の記されている唐箕、唐臼、万石等の農具の実物資料約15点を展示。

アルフレッド・バルビーニーヴェネツィアンガラス界の巨匠ー（9/14～11/4）

アルフレッド・バルビーニ氏制作のヴェネツィアの手をテーマにしたガラス作品をはじめ、花器、オーナメント等 100点を展示。

牛玉宝印ー祈りと誓いの呪符ー（11/12～12/15）

牛玉宝印の実物資料、起請文、版木、摺刷用具、儀礼用具、牛玉宝印の描かれた絵巻物等約 250点を展示。

\*平成3年12月20日から平成4年10月上旬まで、空調、電気、衛生設備の改修工事のため休館。

### ■檜原村郷土資料館

檜原で採集された押花展（6/1～3/30）

村を歩くとひっそりと咲く野草が目止まる。自然が豊富な檜原村に咲く多くの野草を押花にして、皆さんに知ってもらえたらと思い展示しました。

村に住んでいた日本狼の骨の展示（8/5～8/31）

この骨は、明治30年、大雨での大水で河原で拾ったもので、当時は大蛇の骨だろうと言われたので、明治末年に桐の箱を作り、それに入れて神棚にしまっておきました。ところが、昭和30年になって、日本狼の権威者直良博士に鑑定して貰ったところ、狼の骨と断言され、貴重なものであるため、皆さんに見て貰いたく展示しました。

湯久保自治会の獅子舞の写真と花笠の展示

湯久保自治会の獅子舞は、創始期が宝暦13年と推定されています。服装や演曲も他の獅子と異なっており、武蔵獅子、常盤獅子、太平獅子などと呼ばれています。袴ゾウリを履き、湯久保自治会から会場までの道中を露払いをしながら、ほら貝を吹き、タイコ、笛、ササラで参道を下ってくるのは神秘的であり、すばらしいものであるため、写真展を行うことになりました。

平成4年度の予定

檜原村内の滝展

昆虫展

### ■東京都井の頭自然文化園

家族連れや、小学校低学年以下の利用者が多く、催物も、主に子供むけです。

- |    |                 |         |            |
|----|-----------------|---------|------------|
| 1  | 動物クイズ大会         | (こどもの日) | 5/5        |
| 2  | スタンプめぐり         | (開園記念日) | 5/17       |
| 3  | アユの放流と観察会       |         | 5/25       |
| 4  | サマースクール         |         | 7/23, 24   |
| 5  | 昆虫展「武蔵野の虫たち」    |         | 7/21~8/31  |
| 6  | 夏休みたのしい昆虫教室     |         | 8/4, 11    |
| 7  | 秋の鳴く虫展          |         | 9/3~29     |
| 8  | 講演会「鳴く虫のおはなし」   |         | 9/16       |
| 9  | 長寿動物のお祝い (敬老の日) |         | 9/15       |
| 10 | 絵に見る上水と江戸の町     |         | 10/1~12/23 |
| 11 | やきいも大会          |         | 11/3       |
| 12 | 干支展             |         | 1/4~2/29   |
| 13 | 新春寿獅子舞 (成人の日)   |         | 1/15       |
| 14 | オンドリの放鳥         |         | 2/12       |

市街地に取り囲まれる当園では、昔は普通に見られた野性動物との出会いや、武蔵野の自然とのふれあいを再現し、自然への理解を深めていただけるよう、「リスの森構想」や「オンドリ千羽計画」などを進めております。ニホンリスを放し飼いにしている「リスの小径」が3年度工事で600㎡に広がります。子供達の中には中に入っての観察再開を楽しみにしています。

### ■奥多摩町郷土資料館

収藏品展 (2階)

3年4月~4年3月 小河内の山村生活用具 (国指定)を中心に展示。

4年1/13~1/31 小展示替  
正月飾りの門棒、まゆ玉飾り。

小河内の郷土芸能 (1階)

3年4月~4年3月 水没した小河内地区に伝承されていた鹿島踊、車人形、獅子舞、神楽を展示。

さらさら獅子舞展示

3年4月~4年3月 奥多摩に数多く伝承されている「さらさら獅子舞」の中から氷川・小留浦の獅子舞、海沢の獅子舞、原の獅子舞を展示 (1階中央展示室)

### ■青梅市郷土博物館

四十周年記念特別企画「注口土器展」開催

生活環境の好条件として欠かすことのできない青梅市の緑と水は、古の文化の香りを今に伝えています。それは、大小の河川流域に数多くの遺跡が分布していることから明らかですが、その貴重な埋蔵遺跡の一つ、縄文時代後期 (約3,000年前)の寺改戸遺跡 (長淵4丁目所在)から、当時の製作とは思えない土瓶が出土しています。美しいプロポーションは、その道の人々の間では、「青梅マラソン」程有名な土器で、昨年ニューヨークで開催された文化庁主催の「日本陶磁の源流展」にも日本の代表として出品され、国際的にも有名になった、まさに青梅市の古代を代表する宝の一つとも言えます。

市制四十周年を記念して、青梅市郷土博物館では、こうした注口土器を東日本規模で博物館や大学等から

### ■調布市郷土博物館

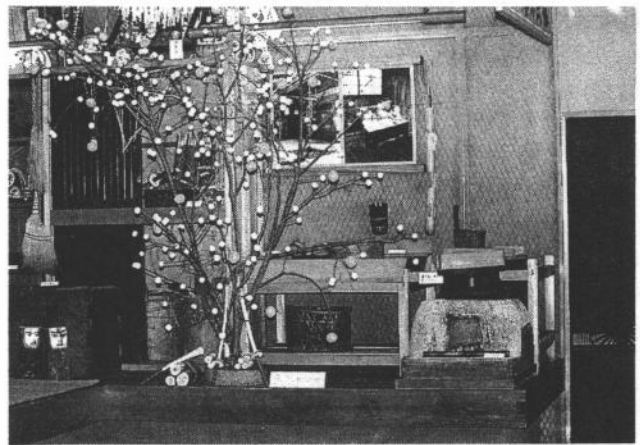
平成4年度は、次の事業を計画しています。

<展示会>

- 1 通常展「調布の歴史」(通年)
- 2 企画展「くらしと鮎物」(仮称) 7/19~9/6  
牟田邦彦氏寄贈鮎物コレクションを中心に、くらしと鮎物とのかかわりについて紹介する。
- 3 企画展「自転車」(仮称) 11月中  
自転車の歴史を紹介し、現代の生活・文化とのかかわりを考える。
- 4 美術作品展 5/28~6/15, 10/1~10/19  
調布市ゆかりの美術家の版画や油彩画などを春秋の2回、3か所の地域福祉センターで巡回展示する。

<教育普及事業>

- 1 歴史散歩 6/15, 10月  
国立歴史民俗博物館を見学する。
- 2 美術散歩 2月  
著名な美術品を展示する美術館を見学する。
- 3 多摩川見学会 6/4, 11月  
多摩川流域の景観・施設などを見学する。
- 4 鮎物観察会 (企画展にあわせて実施する) 7月
- 5 縄文土器作り講習会 7月
- 6 染め物講習会 (草木染め・泥染め) 7月
- 7 しめ縄作り・わら草履作り 12月



借用し、72点を展示いたしました。

青梅市の文化と他地方の文化を比較し、郷土青梅市を知る手掛かりとなれば幸いです。

また、12月1日には講演会と座談会が行われました。



### ■五日市町立五日市町郷土館

収蔵品展「食生活用具」 3/2～6/2

民俗資料の分類ごとにテーマを設け、収蔵資料を中心に展示。今回は「食生活用具」に視点をあてた。

企画展「秋の草花」 10/11～12/22

町内の丘陵・草原・池沼などで採集した植物標本・写真を中心に、秋の野山の植物を紹介した。

講座「自然探検クラブ」 6/30, 7/14, 27, 8/11, 9/8, 10/27, 11/24, 12/15, 1/11, 2/2, 23, 3/15

小学生と保護者を対象に、年間12回連続の講座。自然体験や観察を通して自然の中で遊べる子に。落ち葉の中に寝る「大地の窓」や冬のナイトハイキング、雪の山でのアニマル・トレッキングなど多彩な内容。

講座「夏休み水生昆虫教室」 7/25 8/29

講座「夏休み化石教室」 8/22, 23

採集・観察・標本作り。夏休み中の郷土学習を援助。

講座「土器作り教室」 9/21, 22, 10/20, 11/4

土器の成形から焼成、さらに作った土器で調理をし、原始・古代の技術や生活の様子について学習した。

刊行物 五日市町史料第七号「上田家文書目録」

明治初期の土地関係文書を中心に、5,100点の目録。

五日市町自然観察ハンドブックⅢ「草木となかよく」

「水べの生きもの」「鳥はともだち」に続く第3弾。

イラスト中心。ポケットサイズで観察のおともに。

### ■福生市郷土資料室

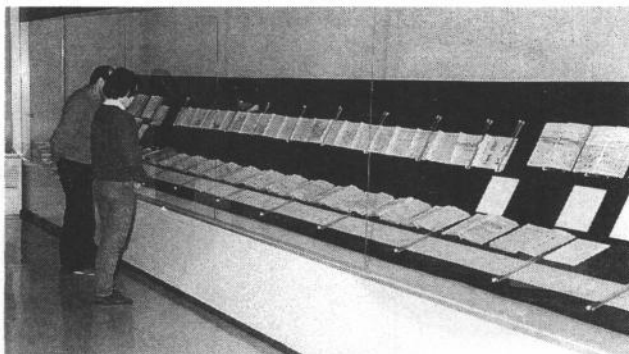
平成3年度企画展「名所図会・江戸から東京へ―鋏形蕙斎の『江戸名所図会』を中心に」

江戸時代後期に地名、寺社などの沿革をやさしい文章と写実的な挿絵で説き、娯楽的な読み物の要素をもった地誌として流行した「名所図会」をテーマとした企画展を開催しました。特に、鋏形蕙斎の描いた天明5年刊行の『江戸名所図会』（卷子本）一巻を中心として20点余の各種名所図会を展示し、江戸から東京への景観の変遷を見ていただきました。

鋏形蕙斎『江戸名所図会』は、木版彩色刷卷子本仕立一巻ですが、江戸の名所50景を選び、人物本位ではなく、全く勝景を主として描き、天保前後のけばけばしい彩色と異なり、古風な天明風を発揮している作品として知られていますが、現存する作品が極めて少ない希覓本の一つです。

●開催期間 平成4年2/1～3/30

●刊行物 図録「名所図会・江戸から東京へ」  
1,000部 1冊 1,000円



### ■羽村市郷土博物館

展示では、平成3年度に主に産業と自治体のあゆみを中心にして近代の羽村市のあゆみを取り上げましたが、平成4年度は教科書を中心にして教育の歴史をたどる特別展「近代の羽村Ⅱ～教育のあゆみ（仮称）」（10/10～12/13）を行います。その他、「羽村で見られる野鳥展」（4/1～4/8）、「五月人形展」（4/10～5/10）「羽村で使われた農機具」（5/10～7/7）「羽村で使われた漁撈具」（7/10～9/6）「玉川上水と木樋」（9/10～12/23）「まゆ玉飾り」（1/10～1/17）「ひな人形展」（2/10～3/7）などの企画展を予定しています。

学習会では、継続して実施している「はむら自然観察会」、市の歴史を学ぼうとする児童・生徒とその親を対象に市内を歩きながら学習する「市内歴史散歩」、歴史講座Ⅰ「玉川上水」、文学散歩Ⅱ「甲府に介山ゆかりの地を訪ねて」、旧下田家住宅を使って糸とり、お月見、まゆ玉作りなどの体験学習を行う「旧下田家住宅の年中行事（仮称）」を計画しています。

### ■瑞穂町郷土資料館

狭山丘陵・石畑狭山嶺遺跡と元狭山ふるさと思いで館展（4/1～10/31）

平成2年度に発掘調査を実施した、石畑狭山嶺遺跡の出土品を展示。遺跡が狭山丘陵の中に存在するのであわせて狭山丘陵に関する展示も行った。また都のふるさとふれあい振興事業費交付金で完成した旧元狭山村役場庁舎復元の「元狭山ふるさと思いで館」関係の展示を行った。

瑞穂町の食文化展（11/2～3/31）

町の総合文化祭に参加する特別展として、文化の日を中心に3日間「瑞穂町の食文化展―近世から現代まで―」をテーマに実施。期間中は資料を見るだけでなく、昔ながらの農村の食べものを3種類作って、会場で試食させた。この展示は年度末まで実施した。

### ■日野市ふるさと博物館

第二回企画展「日野と養蚕」―オコサマをそだてて―  
（平成3.7/20～8/30）

かつては、多摩地区でも上位の出繭量を争うほど盛んであったにもかかわらず、時代と共に忘れ去られようとしている日野の養蚕について展示を行いました。

体験学習会 1.糸とり 8/3  
2.まゆ人形作り 8/17

講演会 1.「カイコ養い・今と昔」 8/4  
2.「絹の新しい利用法」  
―食品化について― 8/25

第一回特別展「太古からのメッセージ」

（平成4年7/1～8/30日）

平成2年8月、日野市内の多摩川河床で約150万年前のアケボノゾウの牙化石が発見されました。特別展では、アケボノゾウの姿を紹介すると共に、化石や地質等から知り得る情報をもとに、当時の環境を明らかにします。アケボノゾウを中心に、古代象やその他動物化石を展示する予定です。

■清瀬市郷土博物館

特別展「長崎莫人-雑木林の詩-」(4/27~5/12)

長崎莫人が描く武蔵野の風景画を展示。従来の形式主義的装飾主義的な日本画とは対極にある生命力溢れるダイナミックな作風は日本画の一傾向を伺わせる。

特別展「光が生みだす風景」(9/21~10/13)

明治から昭和初期に活躍した洋画家が描いた風景画を展示。出品作家-浅井忠, 有島生馬, 石井柏亭, 岸田劉生, 黒田清輝など23名, 34点。

民俗展示室テーマ展示「女のくらし」(1992.2~1993.3)

清瀬に生きてきた明治・大正・昭和の女性たちのくらしを生活用品, 歴史資料, 写真等を通して紹介。人生の晴れやかな場面ではなく, 普段のくらしの中の女性を重要視して, 展示を構成した。

博物館年中行事

あぼ・ひぼ, まゆ玉, 麦棒打ちなどを再現する。「節分とやっかがし」では, 古老に戦争体験を語ってもらい, 戦争を知らない世代の市民や子どもたちに戦争とはどんなものであるかを, 生の証言を通して知ってもらう。

先人の知恵に学ぶ

郷土料理, 機織り, 藁草履作りなどを体験。

オートスライド「清瀬の野鳥」制作

清瀬にすむ野鳥を, 鳴き声を混じえながら紹介。

■武蔵村山市立歴史民俗資料館

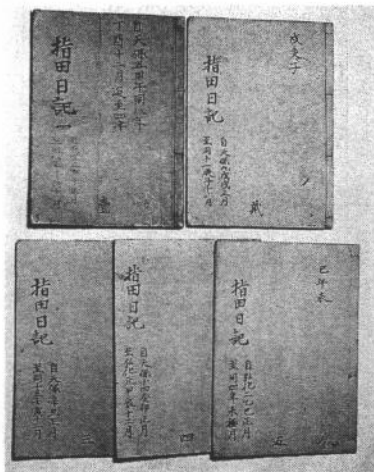
新刊紹介 武蔵村山市文化財資料集10「武蔵村山の昔がたり-村山ことばによる生活誌-」

本書は, 平成2年11月に発刊した資料集8「村山ことばによる口頭伝承」(ミュージアム多摩No.12で紹介)の続編として, 市内の人々の生活の中で育まれてきた民俗事例を「生活誌」という形で, さしえ, 写真をまじえて148話紹介しています。内容は, 子供の遊び, 年中行事, 農作業, 屋号の4編からなり, お年寄りの話す「村山ことば」を生かした表現になっています。この中には, もはや絶えてしまったもの, あるいは絶えつつあるものがたくさんあり, できるかぎり収録してあります。

特別展示「指田日記」(10/6~12/8)

指田日記は, 中藤村原山(現中央3丁目)に住まいした「指田撰津正藤詮」により記された天保5

(1834)年から明治3(1870)年までの37年間の記録です。内容は, 歴史, 風俗, 慣習, 産業状況など, 多岐にわたっています。



■東京高尾自然科学博物館

自然観察会(日曜日)	スマイレ類	4/14
	初夏の樹木	5/19
	鳴く虫	8/18
	人里の植物(雑草)	9/22
	けものを探そう	10/20
	冬の樹木	12/15
	昆虫の冬越し	1/19
自然観察会(平日)	スマイレ類	4/16
	東高尾山稜の自然I	5/21
	東高尾山稜の自然II	7/16
	セミを探そう	8/23
	東高尾山稜の自然III	10/15
	種の散り方を見よう	10/22
	東高尾山稜の自然IV	2/18
	高尾山の冬鳥	2/25
自然講座(日曜日)	葉草	6/16
	昆虫	7/21
	絶滅に瀕した植物	11/17
	多摩の動物	2/16
	多摩の植物	3/15

■立川市歴史民俗資料館

特別展「立川の遺跡展」	7/20~9/1
体験学習会 はたおり教室①	7/26, 8/2, 9
” ②	8/16, 23, 30
” ③	9/6, 13, 20
” ④	10/4, 11, 18
” ⑤	11/15, 22
” ⑥	12/6, 13
” ⑦	2/14, 21, 28
” ⑧	3/6, 13, 27
手打ちうどん作り	8/7, 21, 10/24
	2/22
もちつき	7/20, 12/21
むぎわら細工	8/3
昔のおもちゃ作り	8/17
月見だんご作り	10/19
まゆだま作り	1/14
草もちつくり	3/26
古文書講座・入門編	2/15, 22, 29, 3/7, 14
夏休み郷土学習相談室	8/27~29



### ■東村山市立郷土館

〔北山公園民家園の年中行事〕

東村山市立郷土館は展示面積 100㎡程の小規模館ですが、昭和59年に「北山公園民家園」が開園し、地域の色々な行事を再現し親しまれています。

・まゆ玉飾り

地域では1月14日の行事ですが、直前の土曜日に郷土館運営委員や地域の古老、婦人の協力で、まゆ玉のダンゴをつくり、カシの枝にミカンと一緒に飾ります。

・手もみ茶作り

民家園の最も定着した行事で、5月半ばの土曜日、

手で摘んだ茶の若葉を地元の腕自慢の方々が一日掛かりで「手もみ茶」に仕上げます。毎年小学生の団体見学をはじめ多くの見学者を集め、最後には試飲もあり見学の市民の方々には大好評です。

・注連縄作り

地元の田圃で育った稲藁で注連縄を作ります。当初は民家園の正月用でしたが、公開で作ったところ好評で、見学者も参加して作るようになりました。

その他、節句や盆棚、十五夜・十三夜と工夫をして行っていますが、どう継承していくか、また市民の参加をはかるかが課題です。

## 三多摩公立博物館協議会会員名簿

館名	〒	住所	電話
東村山市立郷土館	189	東村山市諏訪1-2-7	0423-91-5353
八王子市郷土資料館	192	八王子市上野町70	0426-22-8939
府中市郷土の森	183	府中市南町6-32	0423-68-7921
町田市立博物館	194	町田市本町田3562	0427-26-1531
青梅市郷土博物館	198	青梅市駒木野1-684	0428-23-6859
調布市郷土博物館	182	調布市小島町3-26-2	0424-81-7656
瑞穂町郷土資料館	190-12	西多摩郡瑞穂町石畑1962	0425-57-5614
奥多摩郷土資料館	190-03	西多摩郡奥多摩町原5	0428-86-2731
福生市郷土資料室	197	福生市熊川850-1	0425-53-3111
武蔵村山市立歴史民俗資料館	190-12	武蔵村山市中藤6343	0425-60-6620
五日市町立五日市町郷土館	190-01	西多摩郡五日市町五日市920-1	0425-96-4069
羽村市郷土博物館	190-11	羽村市羽741	0425-58-2561
清瀬市郷土博物館	204	清瀬市上清戸2-6-41	0424-93-8585
立川市歴史民俗資料館	190	立川市富士見町3-12-34	0425-25-0860
檜原村郷土資料館	190-02	西多摩郡檜原村3221	0425-98-0880
日野市ふるさと博物館	191	日野市神明4-16-1	0425-83-5100
(仮称) 国立市郷土文化施設開設準備室	186	国立市富士見台2-47-1	0425-76-2111
東京農工大学工学部付属繊維博物館	184	小金井市中町2-24-16	0423-81-4221
東京都井の頭自然文化園	180	武蔵野市御殿山1-17-6	0422-46-1100
東京都高尾自然科学博物館	193	八王子市高尾町2436	0426-61-0305

発行：東京都三多摩公立博物館協議会

〒190 立川市富士見町3-12-34

立川市歴史民俗資料館内

☎0425-25-0860

編集委員 清瀬市郷土博物館

日野市ふるさと博物館

檜原村郷土資料館

立川市歴史民俗資料館